

# 岡山県感染症週報 2015年 第11週 (3月9日～3月15日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

## ◆2015年 第11週 (3/9～3/15) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第9週	5類感染症	急性脳炎 1名 (幼児 女)
		侵襲性肺炎球菌感染症 2名 (60代 女 1名、80代 男 1名)
第10週	2類感染症	結核 3名 (20代 女 1名、60代 女 1名、80代 男 1名)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名 (80代 女)
		梅毒 2名 (20代 男 1名、40代 男 1名)
第11週	2類感染症	結核 1名 (80代 女)
	5類感染症	ウイルス性肝炎 1名 (30代 男)
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名 (80代 男)
		梅毒 1名 (20代 男)

### ■定点把握感染症発生状況

- インフルエンザは、県全体で345名 (定点あたり3.85 → 4.11人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- 感染性胃腸炎は、県全体で434名 (定点あたり8.02 → 8.04人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で84名 (定点あたり1.76 → 1.56人) の報告があり、前週より減少しました。

### 【第12週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が10施設でありました。(3月16日～18日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で345名 (定点あたり3.85 → 4.11人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。岡山県は、3月5日に「インフルエンザ警報」を「インフルエンザ注意報」に切り替え、ひきつづき注意喚起を図っています。地域別では、備北地域 (8.83人)、倉敷市 (7.63人)、備中地域 (5.67人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は、10施設でありました。インフルエンザによる入院患者は、3名の報告がありました。県内の発生状況など詳しくは、「**インフルエンザ週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で434名 (定点あたり8.02 → 8.04人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。依然として多くの患者が報告されています。地域別では、岡山市 (9.50人)、倉敷市 (9.45人)、備前地域 (9.10人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など、詳しくは「**感染性胃腸炎週報**」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
3. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で84名 (定点あたり1.76 → 1.56人) の報告があり、前週より減少しました。2週連続で減少したものの、過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、岡山市 (2.71人)、倉敷市 (1.91人)、美作地域 (1.50人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。全国の2015年第10週までの発生状況は、定点あたり報告数が第2週 (1/5～1/11) から増加傾向にあり、過去10年間の同時期と比較してもっとも多い状態です。近隣の鳥取県、島根県でも定点あたり5人を超える流行となっていますので、ひきつづき今後の県内の発生状況に注意してください。

## ◆ 小学校入学前に、麻しん・風しんの予防接種を！

\* 麻しん・風しんの定期予防接種 (第2期) の接種期間は、  
小学校入学前の1年間 (4月1日～3月31日) となっています。

4月から小学校に入学されるお子さんと、まだ接種を済ませていない方は、積極的な接種をご検討ください。

接種対象者：平成20年4月2日～平成21年4月1日生まれの方

## ◆ 春休みに海外へ旅行される方へ

○春休みに海外へ旅行される方に向けた感染症情報が、  
厚生労働省検疫所のホームページに掲載されました。

[春休みに海外へ渡航される皆さまへ（厚生労働省検疫所）](#)

海外には、通常日本国内に存在しない感染症が多くあります。  
海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に  
関する情報を入手しておくことが大切です。

### <旅行中の注意点>

- ・生水、氷、カットフルーツやサラダなど、火が通ってないものを  
食べることは避けましょう。
- ・蚊・ダニに刺されないように、注意しましょう。  
(肌の露出を少なくする、虫よけ剤を使用するなど)
- ・動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。  
(狂犬病や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります)
- ・外出後は、しっかり手洗いをしましょう。

### <帰国した後に>

- ・帰国時に体調不良があれば、空港の検疫所に相談しましょう。
- ・帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、  
早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えましょう。

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★★★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、 前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：  
 : 2倍以上の減少    : 1.1~2倍未満の減少    : 1.1未満の増減  
 : 1.1~2倍未満の増加    : 2倍以上の増加

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。  
 空白：発生なし    ★：僅か    ★★：少し    ★★★：やや多い    ★★★★：多い    ★★★★★：非常に多い

## インフルエンザ週報 2015年 第11週 (3月9日～3月15日)

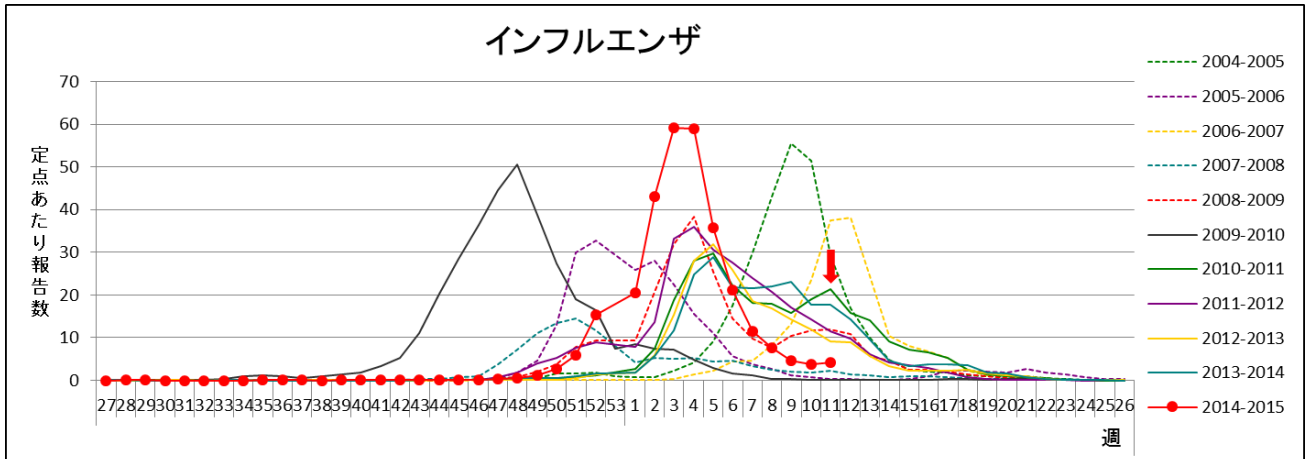
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

## ➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で345名(定点あたり3.85 → 4.11人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が10施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者3名の報告がありました。

## 【第12週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が10施設でありました(3月16日～18日)。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で345名(定点あたり3.85 → 4.11人)の報告があり、前週とほぼ同数でした(84定点医療機関報告)。岡山県は、3月5日に「インフルエンザ警報」を「インフルエンザ注意報」に切り替え、ひきつづき注意喚起を図っています。

地域別では、備北地域(8.83人)、倉敷市(7.63人)、備中地域(5.67人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、特に倉敷市(6.00 → 7.63人)での増加が目立ちました。流行のピークは過ぎたものの、依然として学校等の臨時休業も報告されており、しばらくは流行がつづくと思われます。

『外出後や食事前の手洗いを徹底する』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』『十分な睡眠を取る』など、感染予防に努めてください。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

### ◆インフルエンザは依然として流行期にあります。 ひきつづき感染予防に努めましょう。

## 【 予 防 】

- \* 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- \* 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- \* 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- \* 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

## 【 かかったかな?という時には 】

- \* 早めに医療機関を受診しましょう。
- \* 周りの人にうつさないように、「咳エチケット」を心がけましょう。
- \* 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

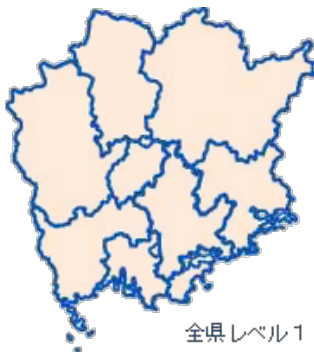
# 1. 地域別発生状況

前週からの推移 (単位: 人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	345	➡	備 中	患者数	68	➡
	定点あたり	4.11			定点あたり	5.67	
岡山市	患者数	38	➡	備 北	患者数	53	➡
	定点あたり	1.73			定点あたり	8.83	
倉敷市	患者数	122	➡	真 庭	患者数	11	➡
	定点あたり	7.63			定点あたり	3.67	
備 前	患者数	43	➡	美 作	患者数	10	➡
	定点あたり	2.87			定点あたり	1.00	

【記号の説明】 前週からの推移: 2倍以上の減少 ↓ 1.1~2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 ➡  
1.1~2倍未満の増加 ➡ 2倍以上の増加 ↑

## インフルエンザ感染症マップ

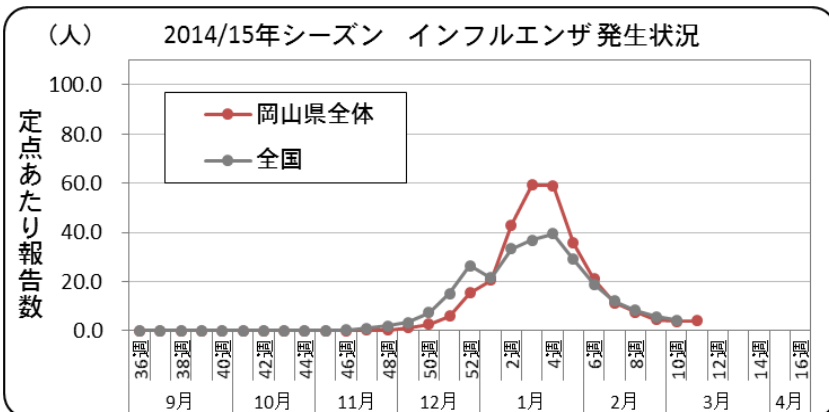
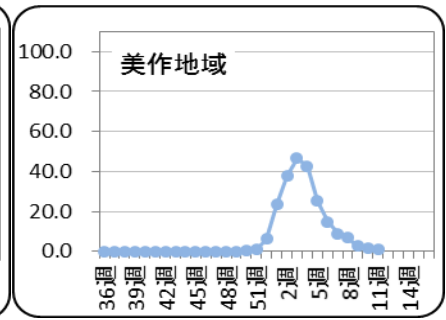
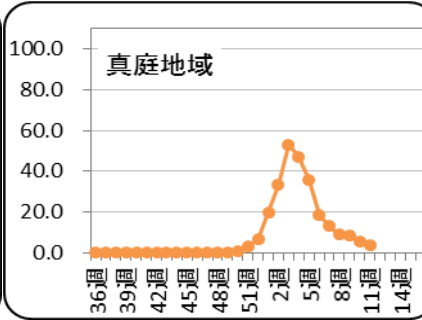
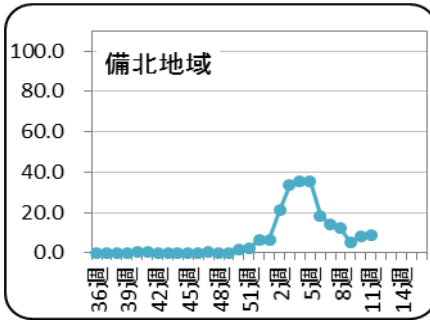
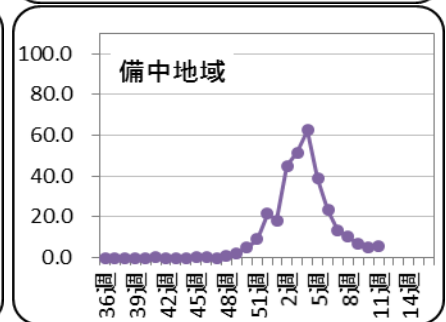
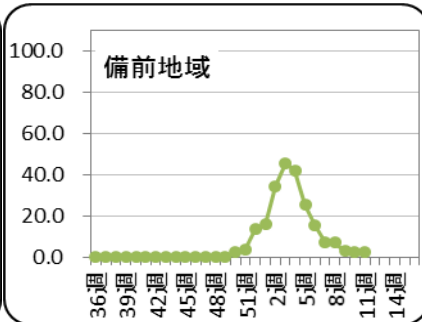
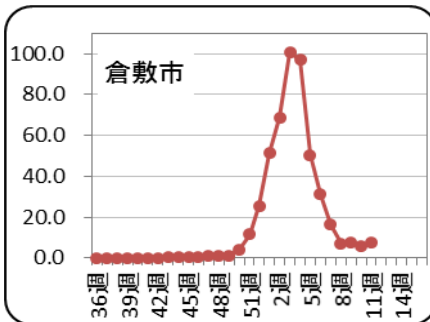
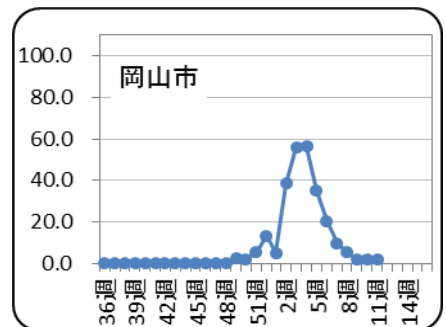


### <インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満

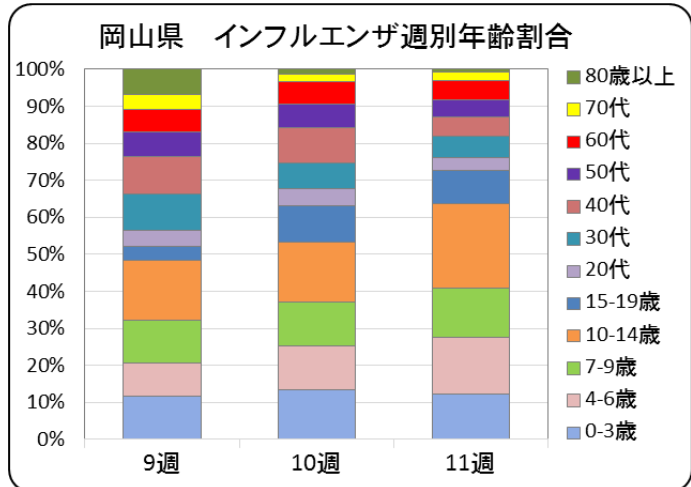
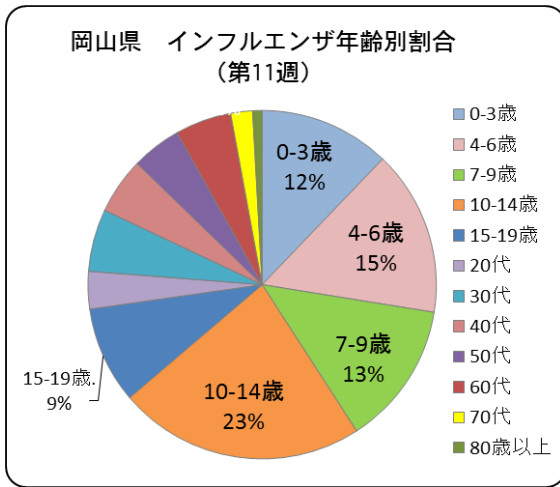
レベル1	報告なし
基準値	基準値
0< 10未満	0



全国集計第10週(3/2~3/8)速報値によると、全国の定点あたり報告数は4.32人であり、第4週(39.42人)をピークに6週連続で減少しました。都道府県別では、山形県で前週の報告数より増加がみられましたが、他の全ての都道府県では減少しています。

## 2. 年齢別発生状況

第11週の年齢別割合は、10-14歳 23%、4-6歳 15%、7-9歳 13%の順で報告数が多くなっています。4-6歳、10-14歳の年齢層で、増加傾向がみられます。

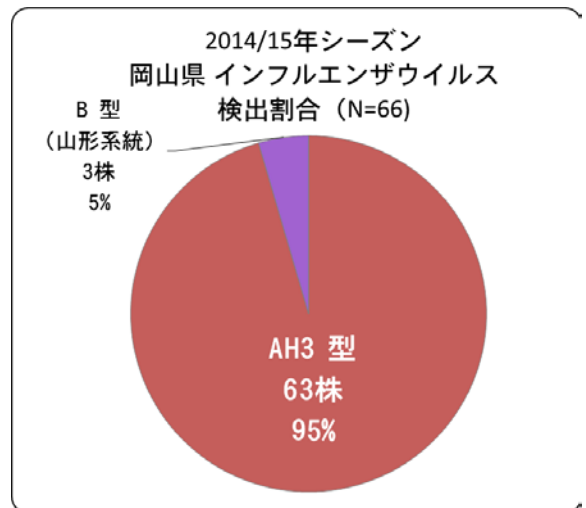


## 3. インフルエンザウイルス検出状況

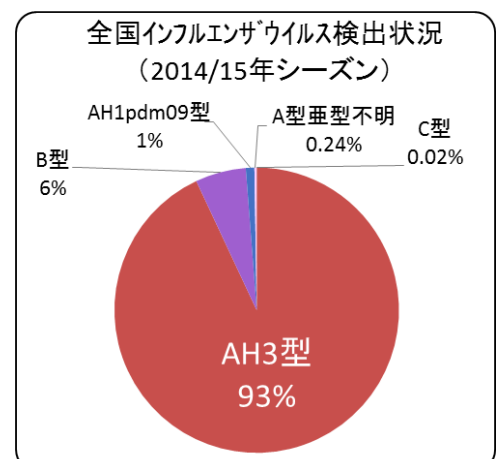
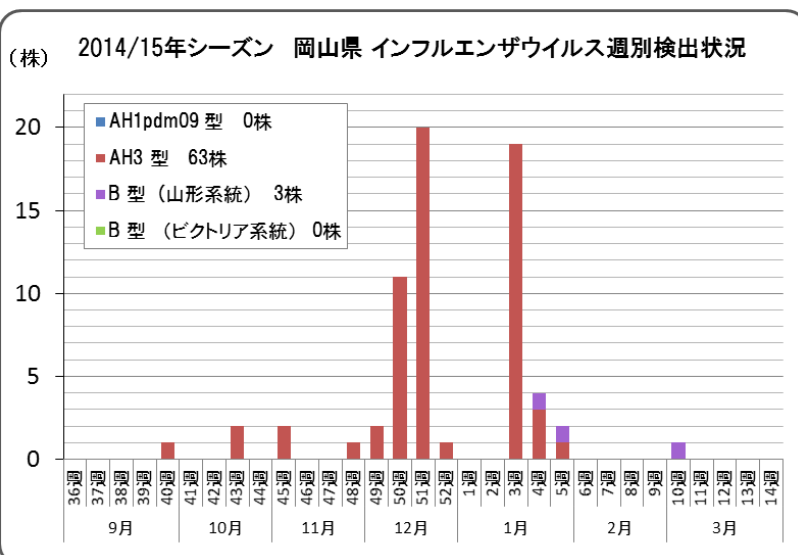
第11週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、B型が2株でした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が63株(95%)、B型が3株(5%)となっています。

### 岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、岡山県と同様、AH3型の検出割合が最も多く93%、次いでB型が6%、AH1pdm09型が1%の順となっています。(2015年3月19日現在) [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)



ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスB型	2015年第4週(1/19~1/25)	2015/1/25	備中	幼児	男	山形系統
インフルエンザウイルスB型	2015年第10週(3/2~3/8)	2015/3/5	岡山市	小学生	女	山形系統

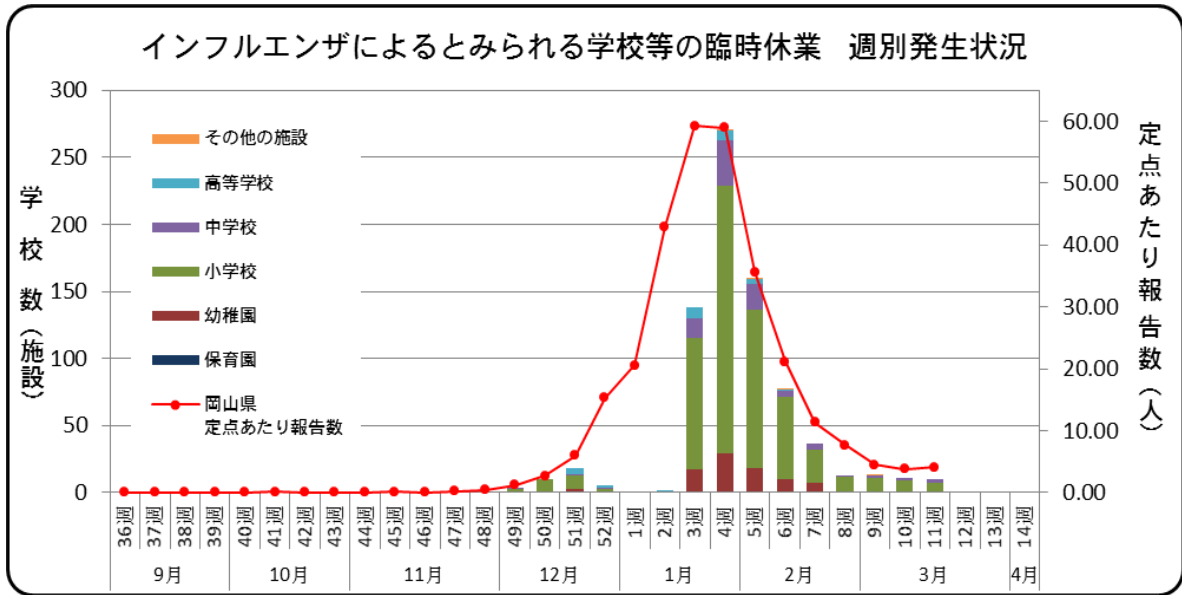


#### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 10 施設でありました。

【第 11 週 臨時休業施設数】

▽倉敷市 3 ▽岡山市 2 ▽笠岡市 2 ▽井原市 2 ▽高梁市 1



#### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
<b>岡山県全体</b>	<b>130</b>	<b>12169</b>	<b>102</b>	<b>9492</b>	<b>10</b>	<b>772</b>	<b>0</b>	<b>16</b>	<b>2</b>	<b>190</b>	<b>8</b>	<b>566</b>	<b>H26.10.21</b>
岡山市	27	4995	17	3750	2	295	0	2	0	40	2	253	H26.12.1
倉敷市	33	2917	30	2378	3	163	0	3	0	24	3	136	H26.10.21
備前地域	0	723	0	609	0	59	—	—	0	22	0	37	H26.12.9
備中地域	57	1615	46	1285	4	128	0	5	2	53	2	70	H26.12.8
備北地域	13	344	9	189	1	13	0	1	0	6	1	6	H27.1.16
真庭地域	0	205	0	172	0	19	0	1	0	10	0	8	H26.12.16
美作地域	0	1370	0	1109	0	95	0	4	0	35	0	56	H27.1.13

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

#### 2) 臨時休業施設数の内訳

第 11 週 : 10 施設

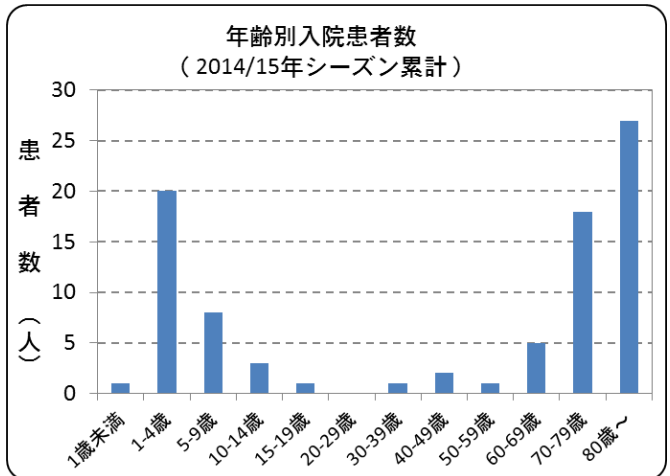
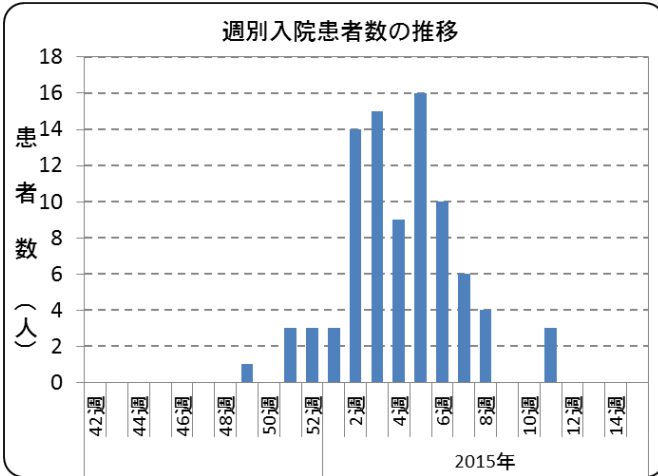
累計 : 772 施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	86	7	567	3	90	0	25	0	4

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、3 名（1-4 歳 2 名、15-19 歳 1 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 11 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	計*
入院患者数		2			1								3
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず		2			1								3

\* 重複あり

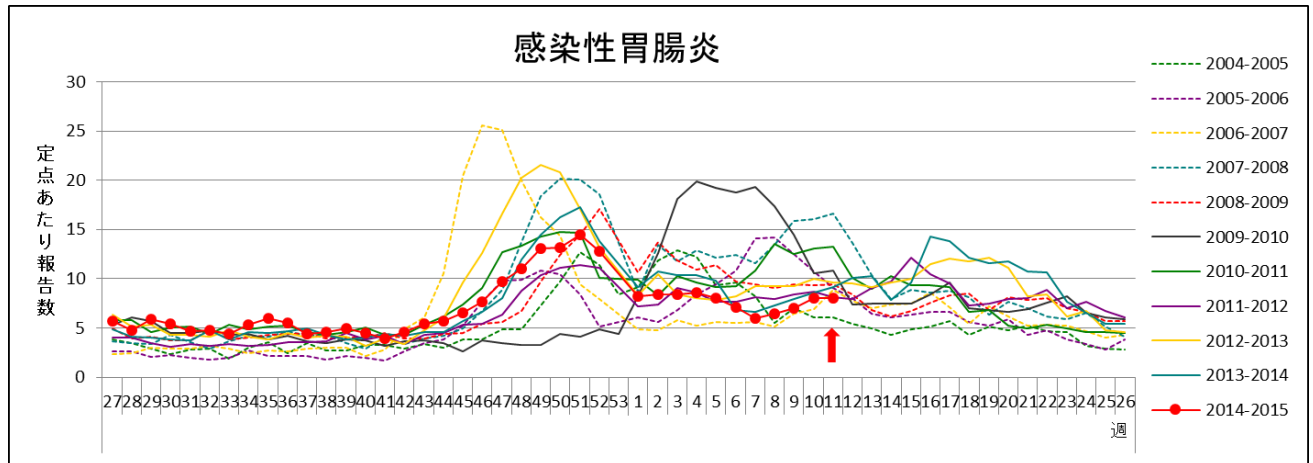
【2014 年 9 月 1 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	計*
入院患者数	1	20	8	3	1		1	2	1	5	18	27	87
ICU入室											3		3
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)		5								2	4	3	14
頭部 MRI 検査(予定含)		1		1							3		5
脳波検査(予定含)		1									1		2
いずれにも該当せず	1	15	8	2	1		1	2	1	3	12	24	70

\* 重複あり

## 感染性胃腸炎週報 2015年 第11週 (3月9日～3月15日)

○感染性胃腸炎は、県全体で434名(定点あたり8.02→8.04人)の報告がありました(54定点医療機関報告)。

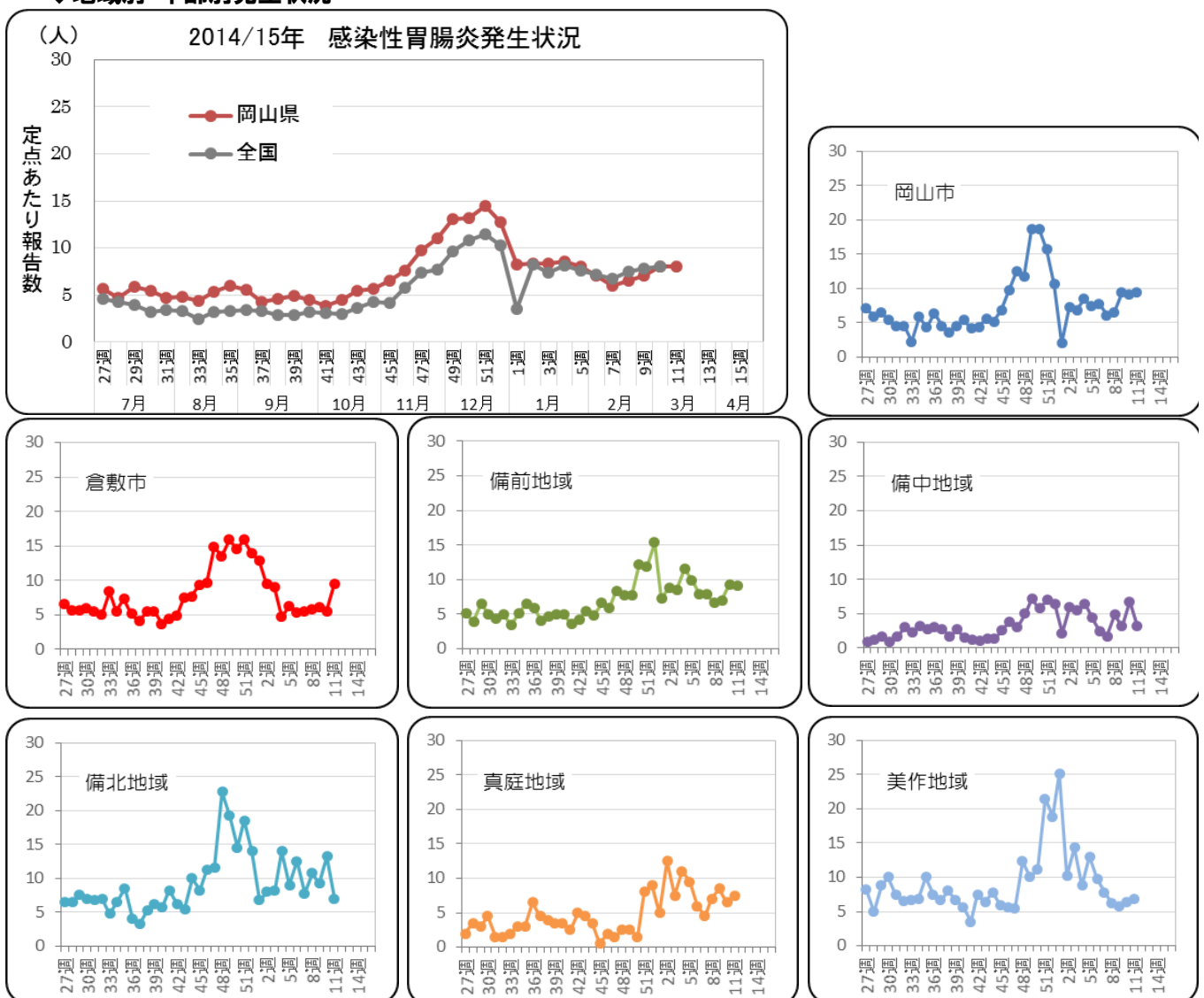


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

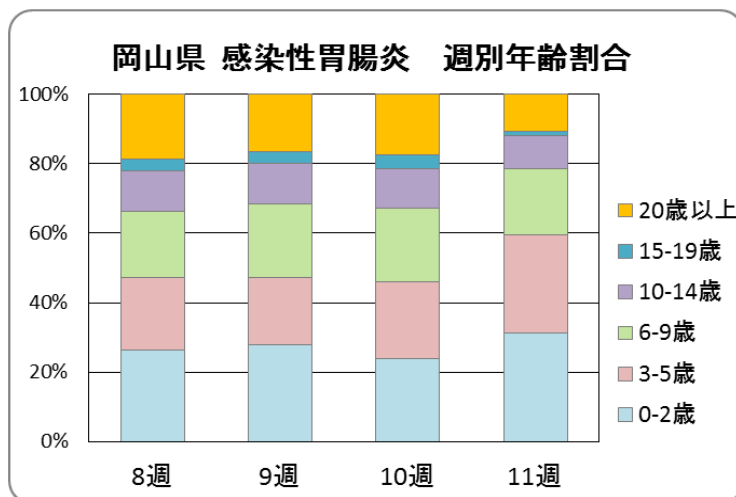
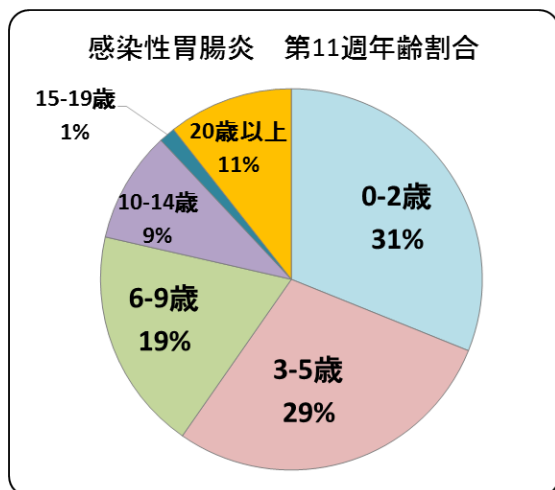
感染性胃腸炎は、県全体で434名(定点あたり8.02→8.04人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。排便後や調理・食事の前には石けんと流水で十分に手を洗う、下痢便・嘔吐物は適切に処理をするなど、感染予防と拡大防止に努めてください。

[ノロウイルスに関するQ&A\(厚生労働省\)](#)  
[ロタウイルスに関するQ&A\(厚生労働省\)](#)

### ◆地域別・年齢別発生状況







地域別では、岡山市（9.50人）、倉敷市（9.45人）、備前地域（9.10人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、倉敷市（5.55 → 9.45人）で大きな増加がみられました。年齢別では、5歳以下の乳幼児が全体の60%を占めており、前週（46%）より増加しています。

例年3～5月には、0～2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[IASR Vol.35 p.63-64: 2014年3月号 ロタウイルス 2010～2013年（国立感染症研究所）](#)

### ◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

- \* 石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。
- \* 患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。
- \* 塩素系漂白剤などを使った消毒も、併せて行いましょう。
- \* 通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともあります。体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[食中毒（ノロウイルス）注意報を発令中です（岡山県 生活衛生課）](#)

保健所別報告患者数(定点把握) 2015年 11週

( 2015/03/09~2015/03/15 )

2015年3月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	345	4.11	38	1.73	122	7.63	43	2.87	68	5.67	53	8.83	11	3.67	10	1.00
RSウイルス感染症	9	0.17	2	0.14	5	0.45	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	8	0.15	3	0.21	2	0.18	-	-	-	-	1	0.25	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	84	1.56	38	2.71	21	1.91	3	0.30	8	1.14	3	0.75	2	1.00	9	1.50
感染性胃腸炎	434	8.04	133	9.50	104	9.45	91	9.10	22	3.14	28	7.00	15	7.50	41	6.83
水痘	15	0.28	8	0.57	5	0.45	-	-	-	-	-	-	1	0.50	1	0.17
手足口病	37	0.69	6	0.43	20	1.82	1	0.10	10	1.43	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	5	0.09	3	0.21	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
突発性発疹	21	0.39	7	0.50	6	0.55	2	0.20	1	0.14	1	0.25	-	-	4	0.67
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	0.06	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	22	0.41	3	0.21	2	0.18	1	0.10	-	-	-	-	-	-	16	2.67
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	5	1.00	5	5.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数(発生レベル設定疾病) 2015年 11週 ( 2015/03/09～2015/03/15 )

2015年3月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	345	4.11	38	1.73	122	7.63	43	2.87	68	5.67	53	8.83	11	3.67	10	1.00
咽頭結膜熱	8	0.15	3	0.21	2	0.18	-	-	-	-	1	0.25	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	84	1.56	38	2.71	21	1.91	3	0.30	8	1.14	3	0.75	2	1.00	9	1.50
感染性胃腸炎	434	8.04	133	9.50	104	9.45	91	9.10	22	3.14	28	7.00	15	7.50	41	6.83
水痘	15	0.28	8	0.57	5	0.45	-	-	-	-	-	-	1	0.50	1	0.17
手足口病	37	0.69	6	0.43	20	1.82	1	0.10	10	1.43	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	5	0.09	3	0.21	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	0.06	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	22	0.41	3	0.21	2	0.18	1	0.10	-	-	-	-	-	-	16	2.67
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2015年 第11週 2015/03/09～2015/03/15 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	345	2	4	14	6	16	12	14	27	12	17	17	79	31	12	20	18	16	18	7	3

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	9	4	1	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	8	-	-	4	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	84	-	-	3	3	7	13	11	11	9	5	5	13	1	3
感染性胃腸炎	434	8	38	48	41	38	48	38	28	23	24	7	41	6	46
水痘	15	-	-	3	4	3	-	1	1	-	2	1	-	-	-
手足口病	37	-	-	12	10	5	5	3	2	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	5	-	1	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	21	1	6	13	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
流行性耳下腺炎	22	-	-	1	2	5	3	1	6	2	-	1	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	5	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

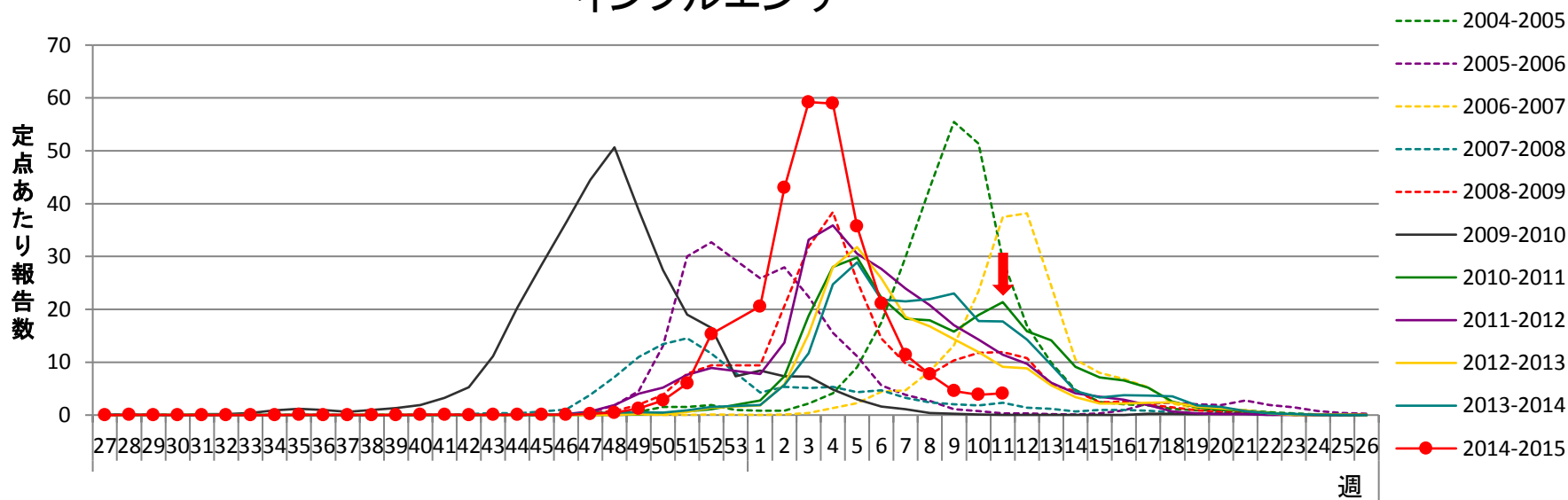
( - : 0 )

# 全数把握 感染症患者発生状況

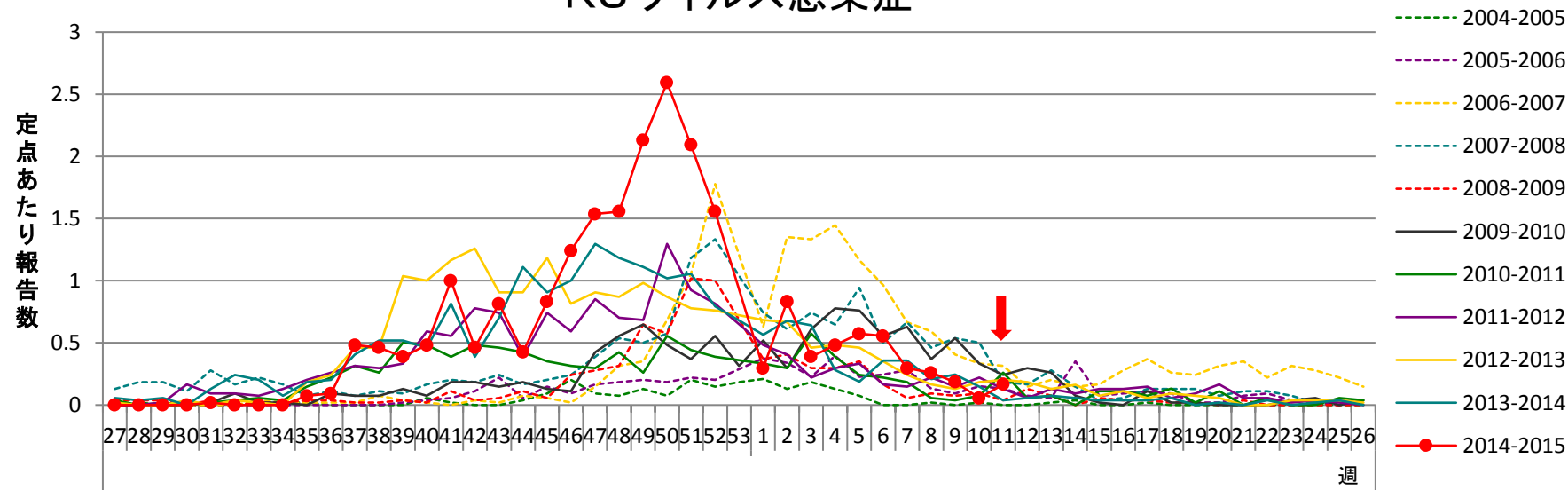
2015年 11週

分類	疾病名	2015			疾病名	2015			疾病名	2015		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	57	384	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	2	70
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	8
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	4	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	野兔病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	4	32	レプトスピラ症	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	5	12	ウイルス性肝炎*3	1	3	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	8
急性脳炎*4		-	3	9	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	-	3	後天性免疫不全症候群	-	3	21	ジアルジア症	-	-	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	-	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	11	27
水痘(入院例に限る。)		-	-	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	1	3	21
播種性クリプトコックス症		-	1	-	破傷風	-	-	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	2	風しん	-	-	2	麻しん	-	-	6
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-

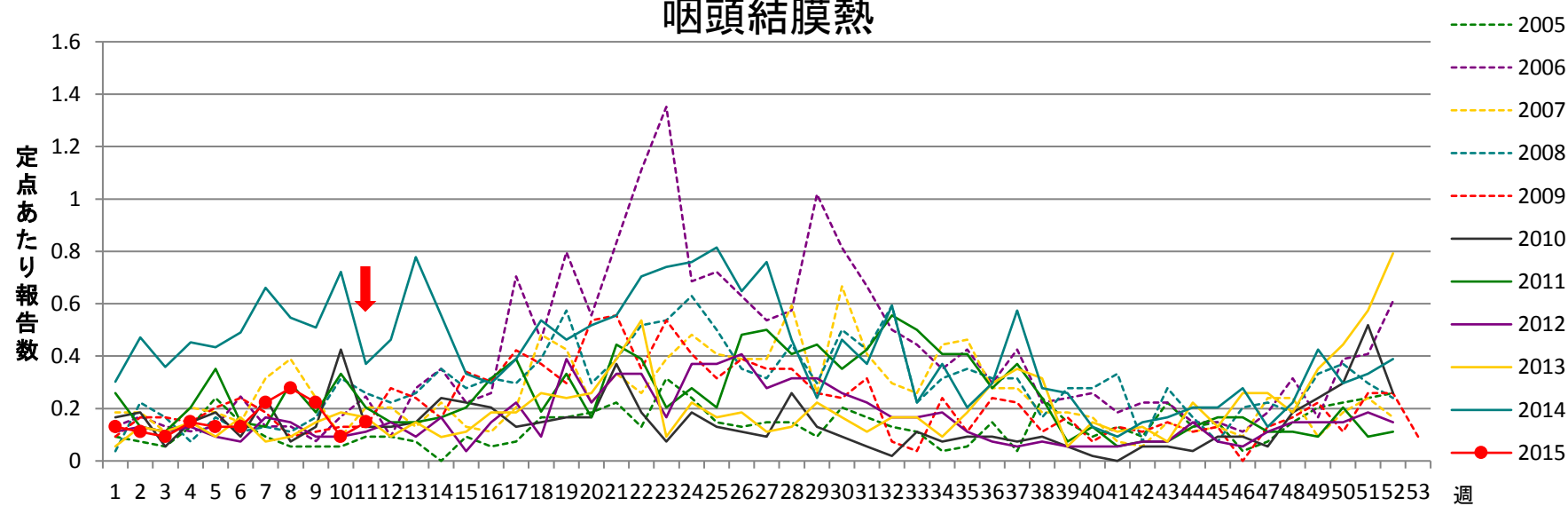
### インフルエンザ



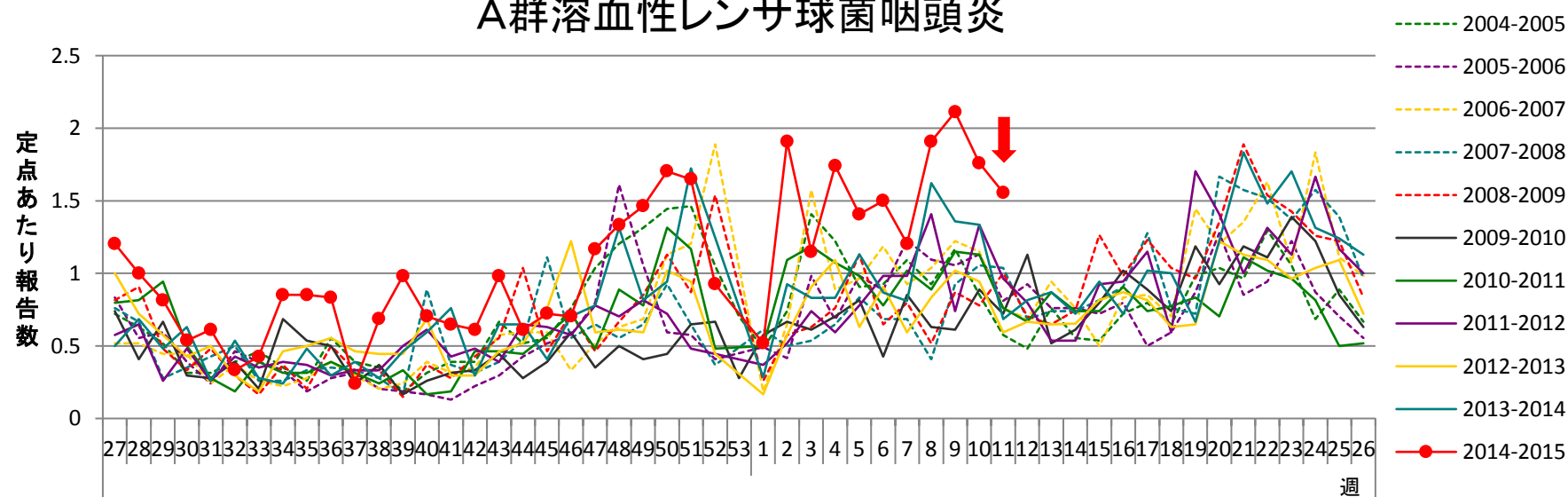
### RSウイルス感染症



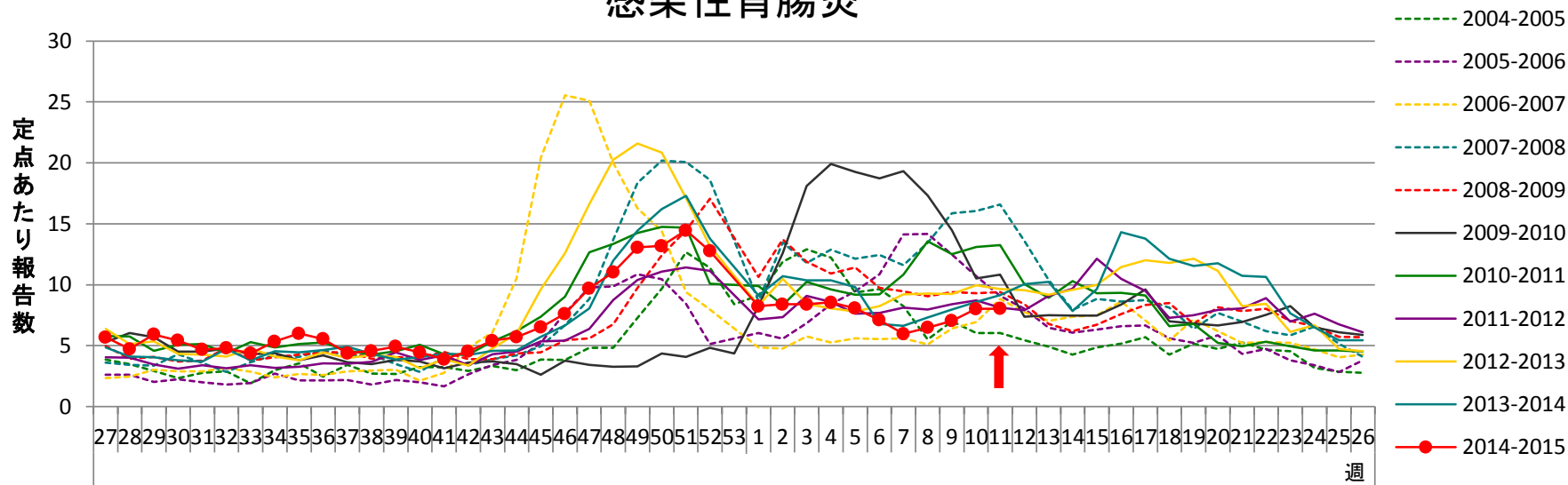
### 咽頭結膜熱



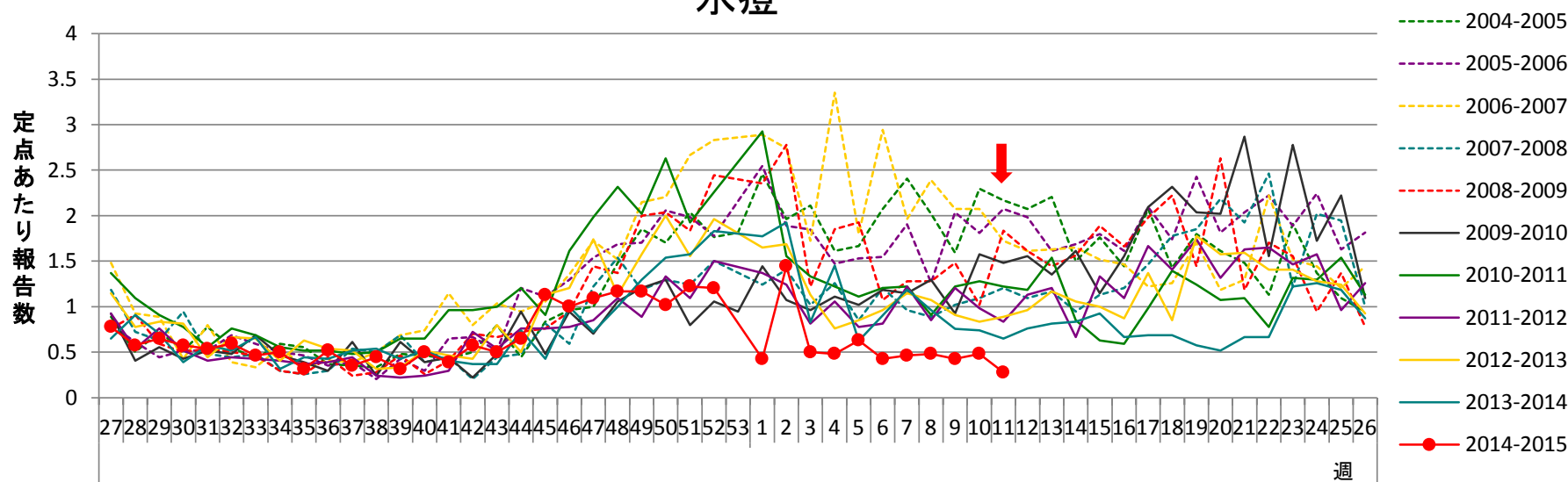
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



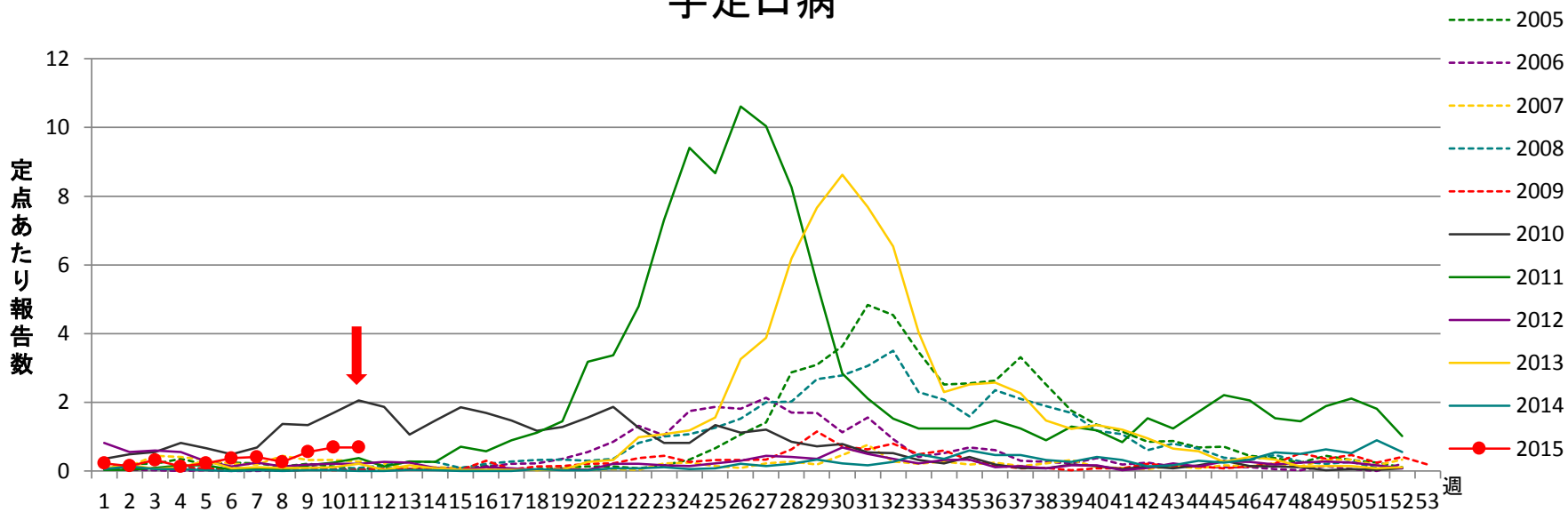
### 感染性胃腸炎



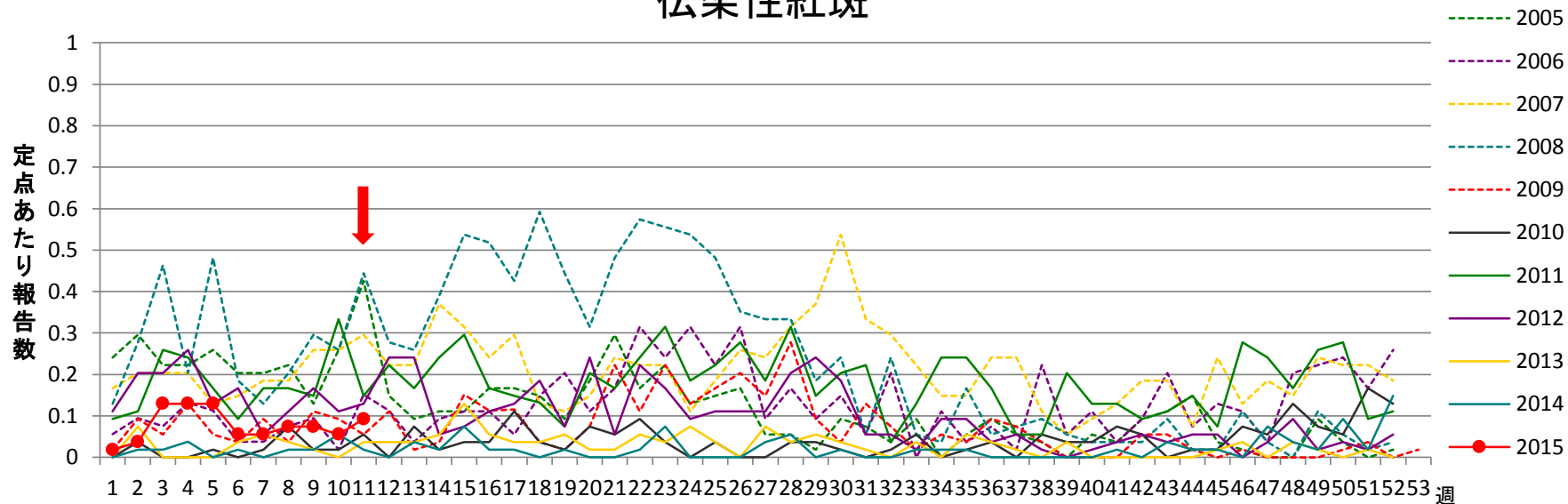
### 水痘



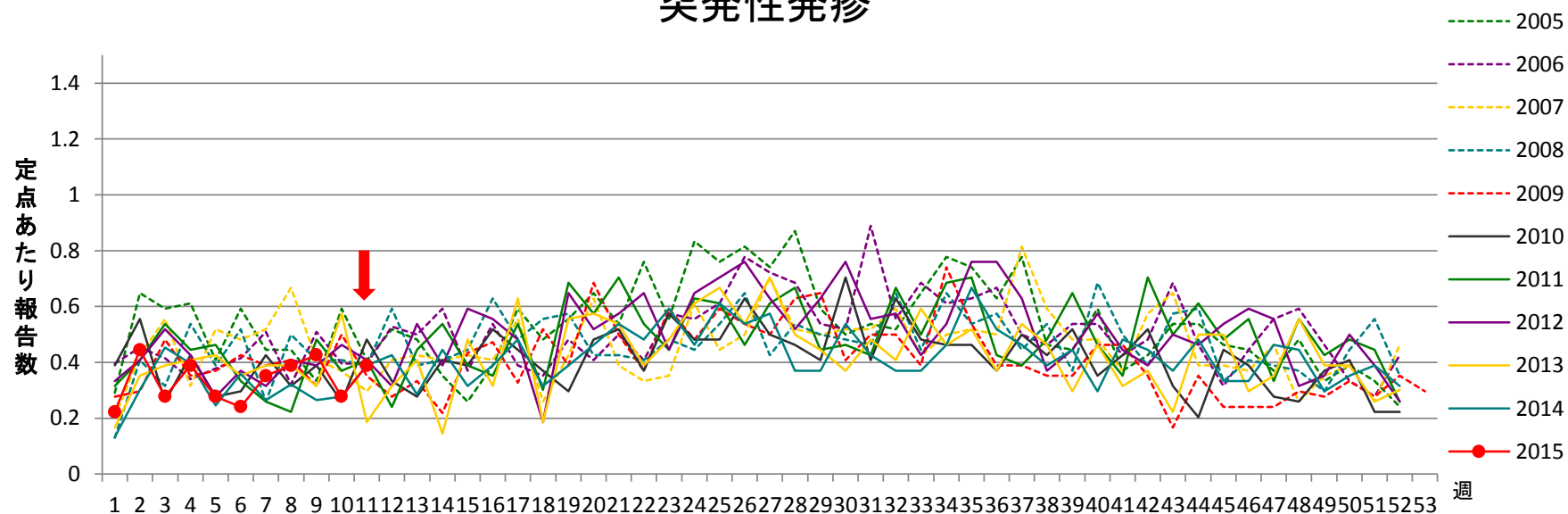
### 手足口病



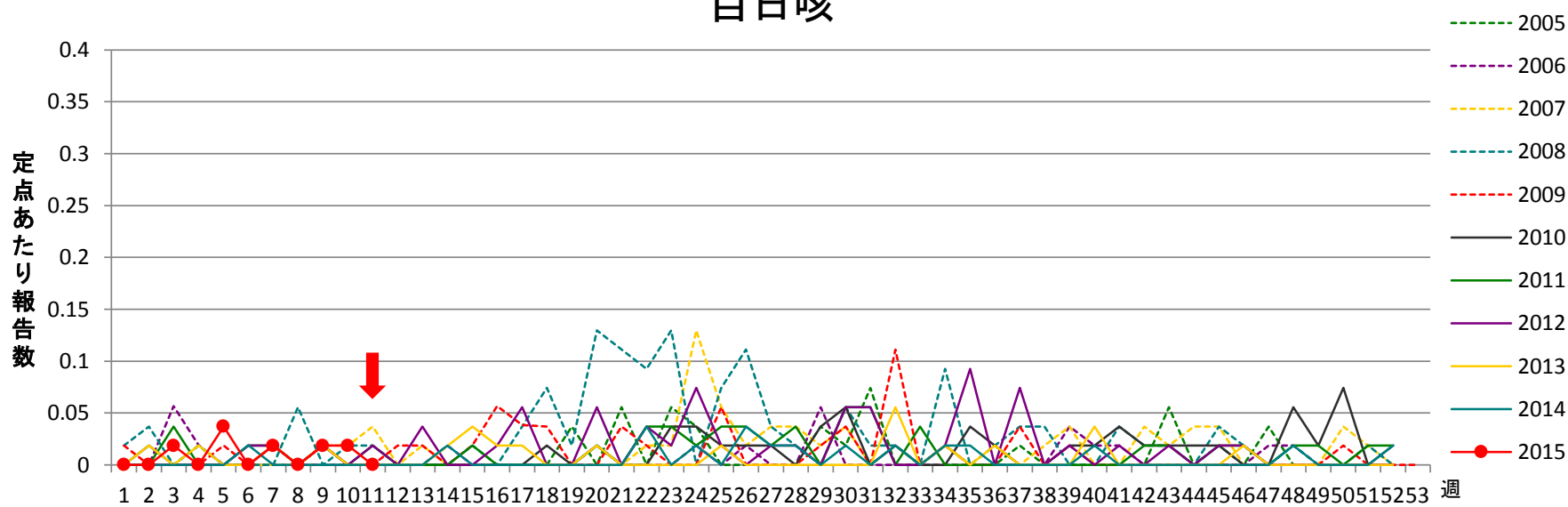
### 伝染性紅斑



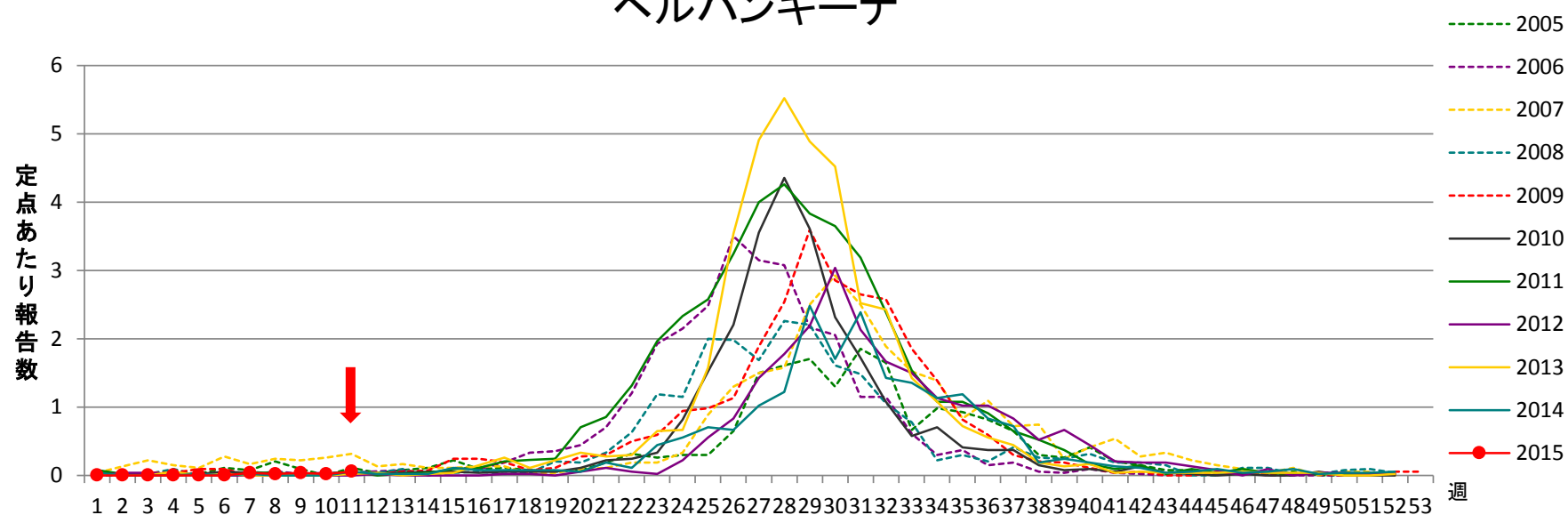
### 突発性発疹



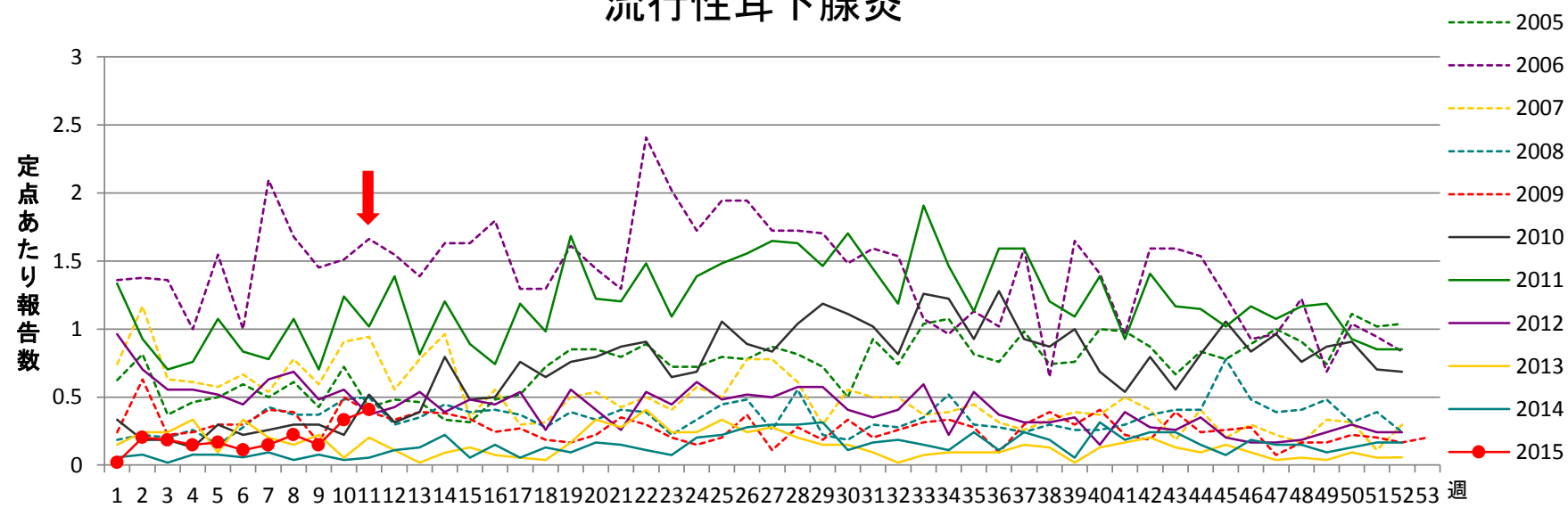
### 百日咳



### ヘルパンギーナ

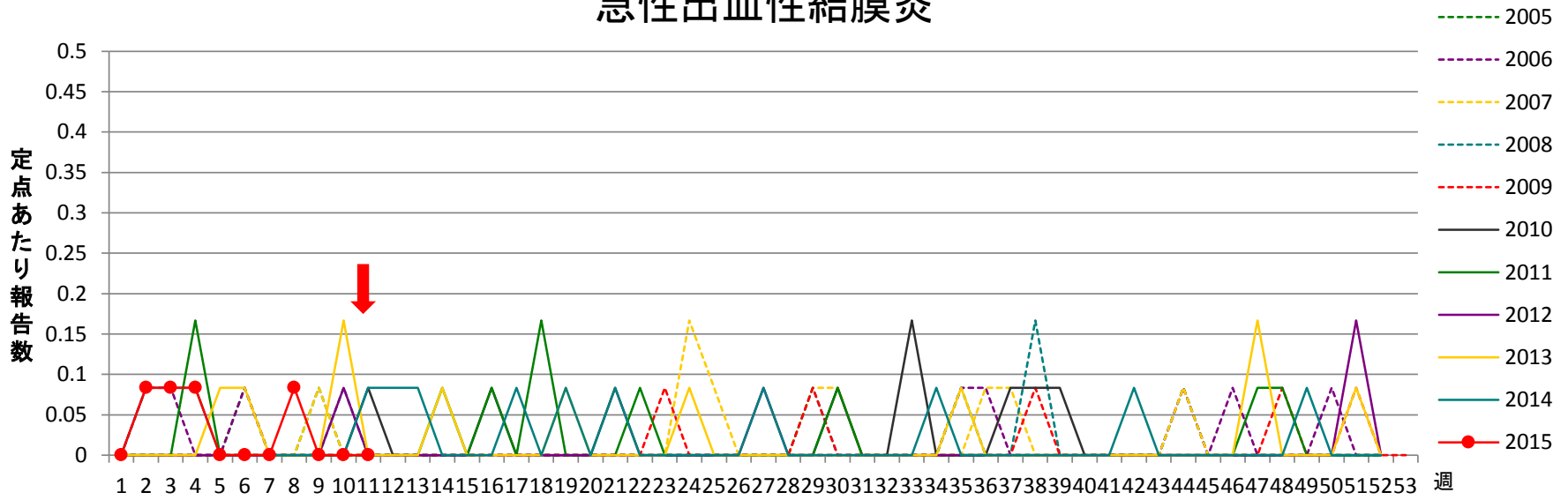


### 流行性耳下腺炎

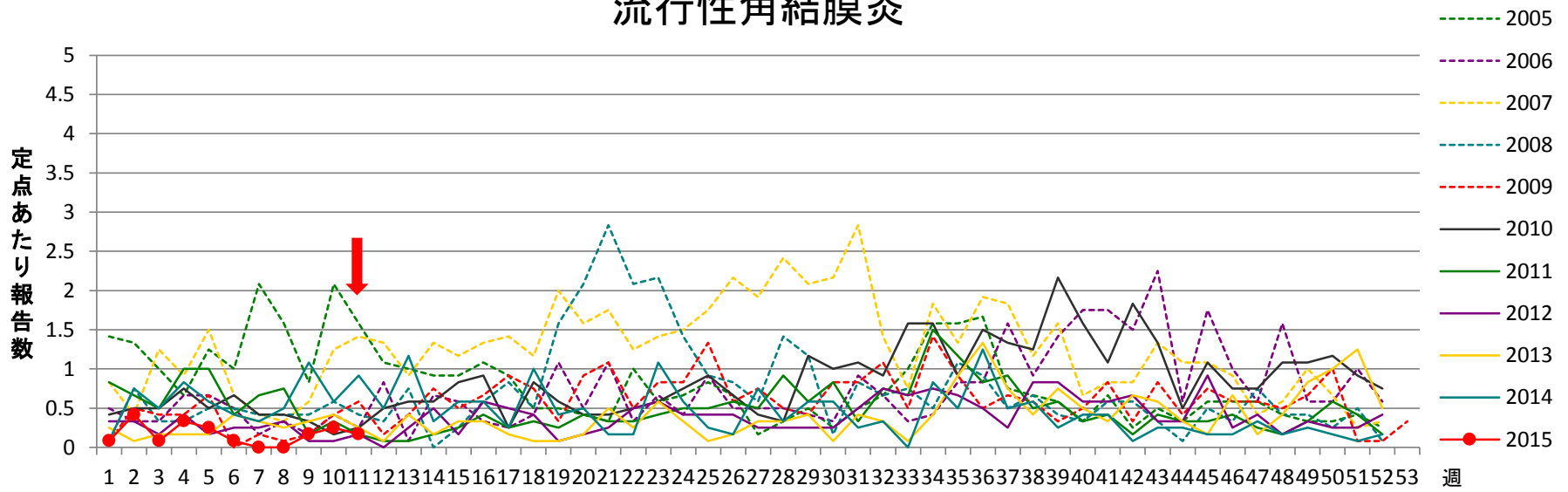




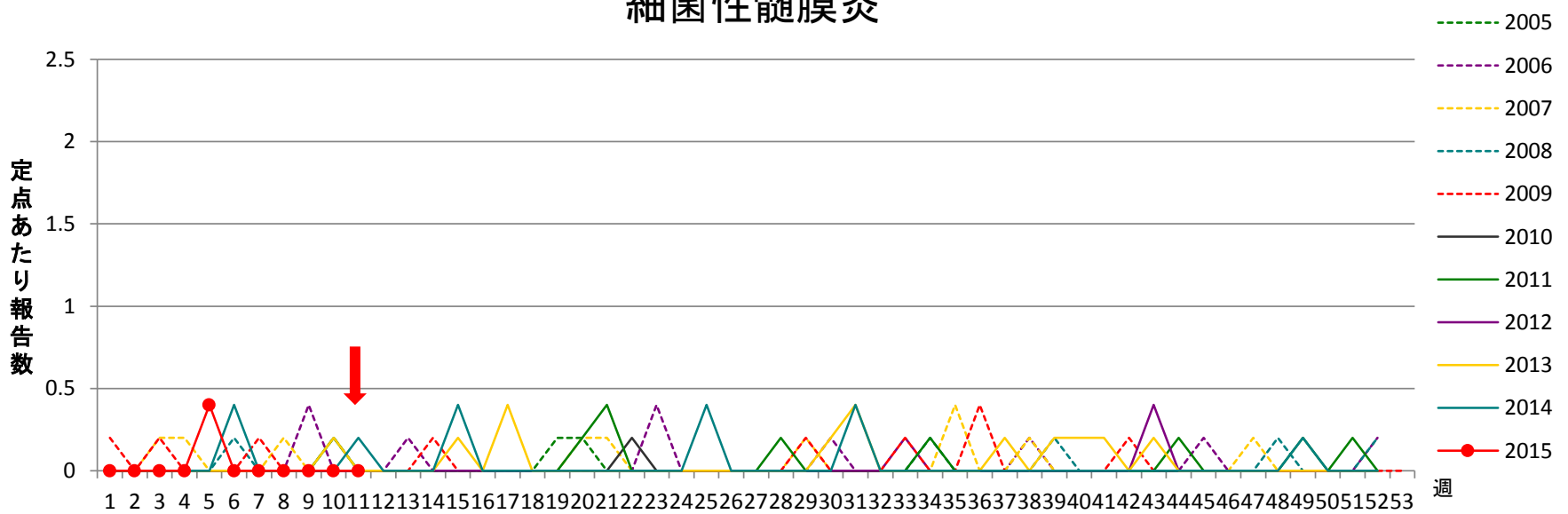
### 急性出血性結膜炎



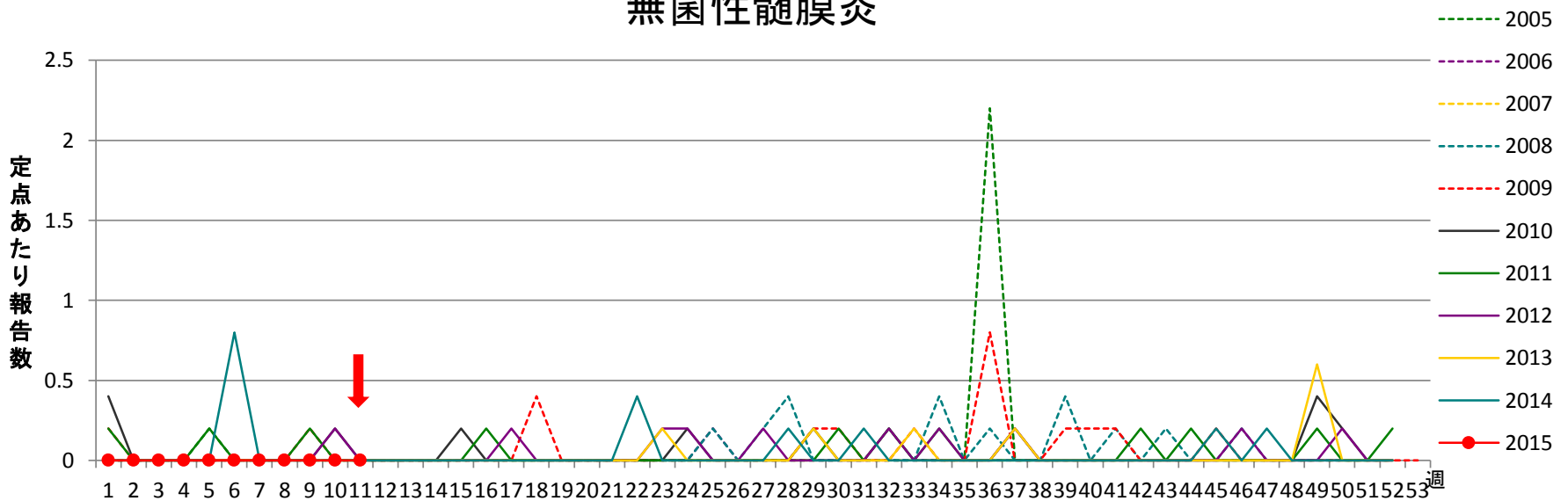
### 流行性角結膜炎



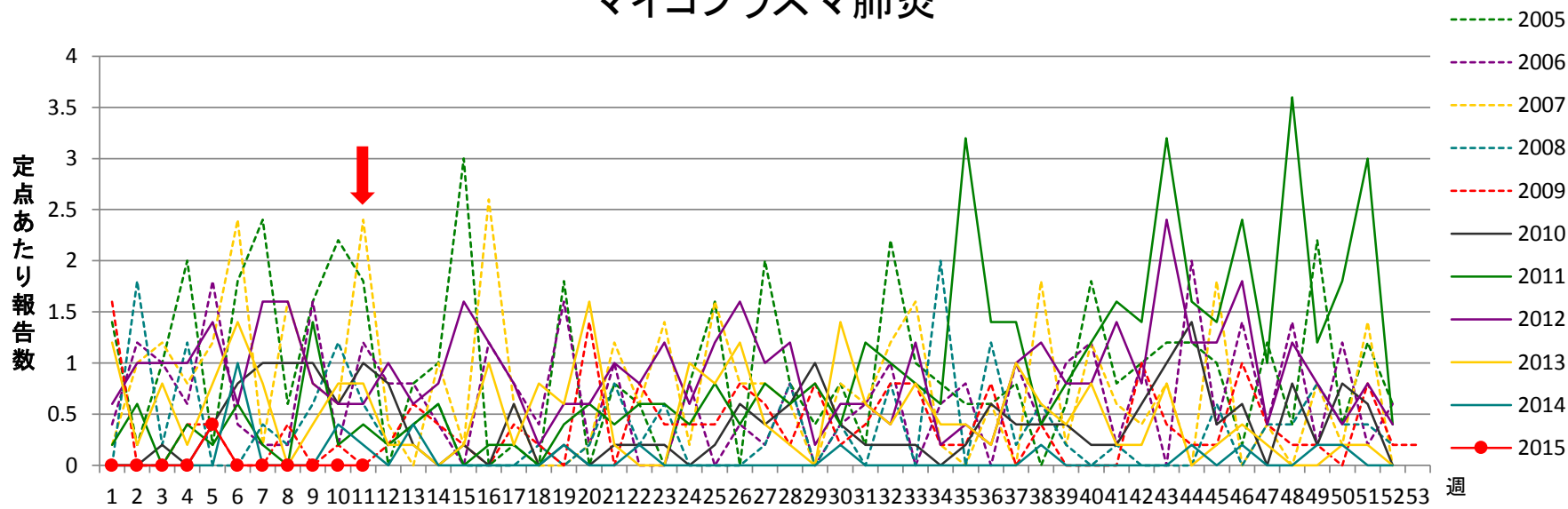
### 細菌性髄膜炎



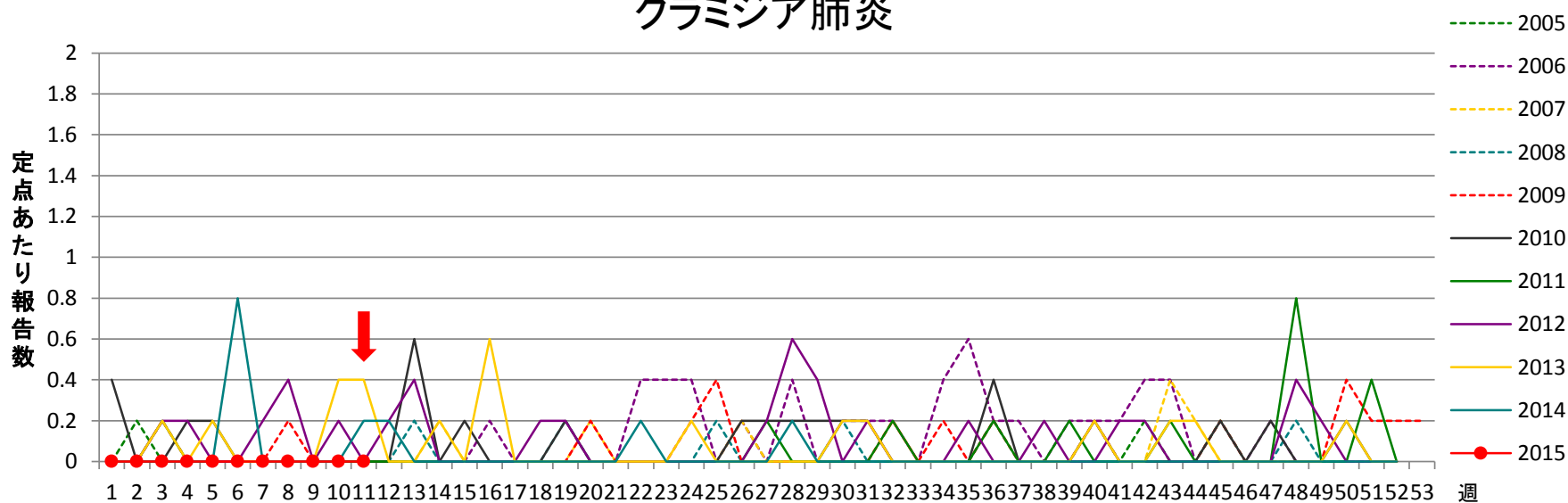
### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

